

# 1 この冬の天候～ 気象予報士からの解説 ～



9月19日発表の寒候期予報（12月～2月）によると、冬の気温は高い見込みで、降水量は平年並みか多い見込みとしています

10月24日発表の3か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並みか多いとしています。

12月は、気温は平年並みか高い見込み、降水量は平年並み。

1月は、気温は平年より高く、降水量は平年並みか多い見込みです。

地球温暖化の影響で、地球全体の気温は高めで推移しており、エルニーニョの影響で上空の偏西風は北に蛇行しやすいため、冬型の気圧配置は弱く、低気圧などの影響を受けやすい時期があるでしょう。

**多雪地帯の長野県の北部では、降雪量は平年並みですが、中南部では大雪の可能性があります。**

## エルニーニョとラニーニャ

東太平洋の赤道域（ペルー沖）の海水温が高い状態を「エルニーニョ」、低い状態を「ラニーニャ」といい、日本の天候に大きな影響を与えています。**冬の場合、エルニーニョは暖冬、ラニーニャは寒冬になりやすい**とされています。

気象庁11月10日発表の監視速報によると、春からエルニーニョ現象が続いており、今後、**2024年春にかけてエルニーニョ現象が続く可能性が高い**（確率80%）としています。

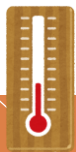
このことから**暖冬になる可能性が高い**といえます。

## 信州の冬は短くなっている～季節の変わり目の温暖化が顕著!!～

### 気象統計でみる気候変動の影響

気象の平年値とは、30年間の平均値で、10年ごとに見直されます。現在使われている平年値は、1991年～2020年の平均値で2021年春から使われています。地球温暖化が顕著になってきたのが1990年代からですので、温暖化の影響が反映された平年値と言えます。

過去の平年値と比較することによって、気候変動の影響を知ることができます。



### 平均気温の平年値（℃）を50年前と現在で比較！

50年前＝統計期間（1941年～1970年）／現在＝統計期間（1991年～2020年）

	年平均気温			2月			3月			10月		
	50年前	現在	増減	50年前	現在	増減	50年前	現在	増減	50年前	現在	増減
長野	11.3	12.3	+1.0	-0.9	0.4	+1.3	2.9	4.3	+1.4	13.2	14.4	+1.2
松本	11.0	12.2	+1.2	-1.0	0.6	+1.6	3.1	4.6	+1.5	12.4	13.9	+1.5
飯田	12.2	13.1	+0.9	1.2	2.3	+1.1	5.0	6.1	+1.1	13.8	15.0	+1.2
軽井沢	7.7	8.6	+0.9	-4.4	-2.6	+1.8	-0.6	1.1	+1.7	9.5	10.5	+1.0
平均			<b>+1.0</b>			<b>+1.5</b>			<b>+1.4</b>			<b>+1.2</b>

県内の温暖化は、年平均気温では50年で約1℃となります。

ところが、春先の2月、3月をみると、+1.4～1.5℃と年平均よりもかなり早いペースで温暖化が進んでいることがわかります。秋では、初霜の時期である10月の温暖化が+1.2℃と大きくなっています。

温暖化の影響で、それだけ冬が短くなっているとみることができます。

【文責】 宮澤 信（気象予報士）